

令和4年度第1回 千葉市史跡保存整備委員会 議事録

- 1 日 時 令和4年9月6日（火） 午前10時～正午
- 2 場 所 Zoomによるオンライン会議
※傍聴は、千葉ポートサイドタワー6階602号会議室
- 3 出席者 **【委員】**
青木委員長、設楽副委員長、赤坂委員、今村委員、佐々木委員
谷口委員、中村委員
【事務局】
佐々木生涯学習部長
（文化財課）佐久間文化財課長、蚊谷新博物館整備室長、横山課長補佐
森本主査
（加曽利貝塚博物館）神野館長、長原主査
（埋蔵文化財調査センター）西野所長
- 4 報 告 (1) 令和3年度事業報告
(2) 令和4年度事業計画
(3) 令和4年度事業の進捗について
 - ・特別史跡加曽利貝塚グランドデザインに基づく史跡整備について
 - ・特別史跡加曽利貝塚新博物館整備について
 - ・令和4年度の発掘調査について
- 5 議事の概要
事務局より令和3年度事業報告及び令和4年度事業計画の説明を行った。
また、令和4年度事業の進捗説明後、委員より史跡内の景観保護に関する意見
や新博物館の整備過程等について質問があり回答した。

6 会議経過

【開会】

(事務局)

ただいまより、令和4年度第1回千葉市史跡保存整備委員会を開催いたします。

私は、本日の進行を務めさせていただきます、文化財課長補佐の横山でございます。どうぞよろしく申し上げます。委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中、会議に御出席を賜りまして誠にありがとうございます。

本日は、7名の委員全員に御出席いただいておりますので、千葉市史跡保存整備委員会設置条例第5条第2項により、会議は成立しておりますことをご報告申し上げます。

本会議は千葉市情報公開条例第25条に基づき会議を公開しております。

議事録につきましても、同じく公開することとなっておりますので、事務局が作成した案を出席委員にご確認いただき、委員長の承認により確定いたします。

本日は、傍聴人は1名です。傍聴される方は、お配りした傍聴要領をご確認のうえ、お守りいただきますようお願い申し上げます。

なお、換気やマスク着用など新型コロナウイルス感染症の対策を十分に講じながら、会議を進めてまいります。

恐れ入りますが、委員の先生方にはオンラインでのご参加をいただいておりますので、ご発言前に氏名をおっしゃっていただくようお願いいたします。

初めに、教育委員会を代表して生涯学習部長の佐々木より、一言ご挨拶を申し上げます。

(佐々木部長)

皆様、こんにちは。ただいま、ご紹介いただきました生涯学習部長の佐々木でございます。

令和4年度第1回千葉市史跡保存整備委員会の開催にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。カメラの関係で着座にて失礼いたします。委員の皆様におかれましては、ご多忙のところ本委員会に御出席いただきまして、誠にありがとうございます。これまで当委員会でご審議いただいて参りました「特別史跡加曽利貝塚新博物館基本計画」でございますが、委員の皆様のお力添えによりまして、おかげさまで本年2月に策定することができました。大変ありがとうございました。

本年4月には文化財課の中に新博物館整備室を設置し、組織体制整備の強化を図り、基本計画に基づいて新博物館の整備を進めているところでございます。

本日は、令和3年度の事業についてご報告させていただくとともに、令和4年度の事業計画と進捗についてもご説明させていただきます。

令和2年度に引き続き、コロナ禍で計画していた事業が実施できなかつたり、規模を縮小するなどしたものがございますが、徐々にではありますけれども、日常を取り戻しつつあるという状況でございます。

結びとなりますが、委員の皆様におかれましては、それぞれご専門の立場から引き続き、ご助言等賜りますようお願い申し上げまして、簡単でございますが私の挨拶とさせていただきます。

できます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

(事務局)

次に、事務局の職員が4月の人事異動で一部が変更となっております。改めて紹介させていただきます。

初めに、ただいまご挨拶いたしました佐々木生涯学習部長でございます。

次に、佐久間文化財課長でございます。

次に、蚊谷文化財課担当課長兼新博物館整備室長でございます。

次に、神野加曽利貝塚博物館長でございます。

次に、西野埋蔵文化財調査センター所長でございます。

次に、森本文化財課特別史跡推進班主査でございます。

次に、長原加曽利貝塚博物館主査でございます。

最後に、本日、司会進行を務めます、私、横山でございます。

どうぞ、よろしくお願いいたします。

続きまして、今回より新たにお問い合わせいたしました委員の方をご紹介します。

お手元の「千葉市史跡保存整備委員会 委員名簿」をご覧ください。新たに、金沢大学特任准教授の佐々木由香委員が就任されております。それでは、佐々木委員から一言ご挨拶をお願いいたします。

(佐々木委員)

金沢大学古代文明・文化資源学研究所の佐々木由香と申します。どうぞ、よろしくお願いいたします。私は、植物考古学を専門としておりまして、先史時代の植物資源利用について研究をしております。加曽利貝塚では前職で炭化種子の分析をさせていただいたほか、2015年7月から出土土器の圧痕をレプリカ法で研究させていただき、先月下旬にも加曽利貝塚博物館友の会のみなさんと首都圏の大学生のみなさん合同で土器の圧痕を調査させていただきました。新たな加曽利貝塚の魅力の向上に少しでも貢献できればと思っております。

また、高橋龍三郎先生の後任ということで、たいへんプレッシャーを受けていますが、私のできることで貢献できればと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(事務局)

佐々木委員、どうもありがとうございました。それでは、次第に従いましてこれより議題に入らせていただきます。それでは、ここからの議事進行は、青木委員長をお願いいたします。どうぞよろしくお願いいたします。

(青木委員長)

前回1月の会議からだいぶ時間が経ってしまっていますが、これから報告を聞いて、色々ご意見を伺えればありがたいと思います。先ほどの佐々木部長のお話にもありましたけども、新博物館整備室が出来て、始動しましたので、新しいフェーズに入っています。これから色々なことをしていかなければならないと思いますので、よろしくお願いいたします。今日は

報告事項だけですが、令和3年度の事業報告から事務局より説明をお願いします。

【 報告事項1 令和3年度事業報告 】

（事務局：資料1 令和3年度事業報告について説明。）

（青木委員長）

ありがとうございました。令和3年度の事業についてご説明をいただきましたけれども、委員の皆様からご意見あるいは質問等ございますでしょうか。

それでは、私から質問ですが加曾利貝塚博物館の教育普及事業のところで、博物館実習をやっていると思います。大学生の博物館実習は重要な教育普及活動だと思いますので、もしされているようでしたらここに追加していただくことは可能でしょうか。

（神野館長）

ご指摘のとおりだと思いますので、追加可能となります。

（青木委員長）

はい。よろしくお願いします。

他はいかがでしょうか。無いようでしたら、令和4年度の事業計画について入りたいと思います。事務局の方からご説明をお願いしたいと思います。

【 報告事業2 令和4年度事業計画 】

（事務局：資料2 令和4年度事業計画について説明。）

（青木委員長）

ありがとうございました。令和4年度の事業について、概要を説明していただきました。

令和4年度事業計画は二項目に分かれていて、まず、特別史跡の魅力向上事業は金額にして3億2,100万円程度予算として確保されて事業が行われています。もう一つは博物館管理運営ですけども、これは3,100万円程度の予算です。全体としては二項目に分かれていて、事業が行われていることをご理解いただければありがたい。

令和4年度になって6か月も経ってしまっているわけですので、事業がかなり進行しています。そのことについて説明していただいた後に、委員の皆さんからご意見・ご質問等をいただければありがたいと思います。それでは、事務局の方、引き続き詳細説明をお願いします。

【 報告事業3 令和4年度事業の進捗について 】

（事務局：資料3 史跡整備の進捗について説明。
資料4-1 新博物館整備について説明。
資料4-2

(青木委員長)

ご説明ありがとうございます。DBO方式というのとPFI方式の内容を、認識していない委員もいるかもしれませんのでどういう内容なのかご説明いただけますか。

(蚊谷室長)

PFI方式もDBO方式も民間事業者から設計から建設、運営まで一括して担っていただくという点が共通なんですけども、違いといたしましては、PFI事業というのは民間の整備運営事業者が自ら資金調達をして整備をするというところです。

今回、千葉市が採用するDBO方式というのは、資金調達は千葉市が行いますので、事業者の皆さんは自分たちで資金調達を担う事業上のリスクが無いというところが大きな違いになります。

(青木委員長)

はい。ありがとうございます。

【 事業報告3 令和4年度事業の進捗について 】

事務局：資料5-1 令和4年度の発掘調査について説明。

資料5-2

資料6-1

資料6-2

(青木委員長)

ありがとうございます。加曽利貝塚の発掘調査の進捗についてはどうですか。

(西野所長)

はい。順調に進んでおります。第2期の最終年度ですが、現在、中央窪地と貝層の間のところの調査が進んでいまして、そこの遺構の内容などが少しずつ見えてきているところです。出土遺物も重要なものもかなり見つかっています。貝層の調査については、ごく一部ですけれども、これからどの部分を調査するのかといったところを話し合っていて進めていくところです。そのようなところでよろしいでしょうか。

(青木委員長)

わかりました。ありがとうございました。

これで事務局側の説明が一通り終わりましたけれども、ご意見・ご質問等ありましたらお願いいたします。

(赤坂委員)

資料2のNo.2の2ページ目の特別史跡魅力向上の“縄文シティサミット”でございます。これについて、どういう会議で、どこが主催しているのか、簡単に説明していただけないでしょうか。

(佐久間課長)

はい。縄文遺跡を有する都市が、北は北海道から、南は鹿児島県の霧島市まで現在 17 の都市が加盟している“縄文都市連絡協議会”というものがございます。

現在の会長市は、三内丸山遺跡を有する青森市でございます。例えば、どんな市があるかと申しますと、北海道ですと伊達市、洞爺湖町、函館市、秋田県ですと大館市、鹿角市、北秋田市、秋田市。それから宮城県東松島市、福島県福島市などがあります。主に北海道、北東北が多いのですが、その他の地域の都市も入って縄文都市連絡協議会というのが構成されております。この加盟都市のひとつの都市において毎年縄文シティサミットというのが行われておりまして、昨年度は青森市、今年度が上野原遺跡を有する鹿児島県の霧島市で行われます。

昨年度、この縄文都市連絡協議会から千葉市も加盟しませんかというお誘いを受けまして、今年度はオブザーバーという形で参加をさせていただいて、来年度以降、本格的に加盟ができればと考えております。

(赤坂委員)

いつ頃から始まったんでしょうか。

(佐久間課長)

設立の年次まではわかりかねます。

(赤坂委員)

ざっと、5～6年前とか、10年前とか30年前とか。そんな感じで結構です。

(佐久間課長)

手元にあるのが、昨年、青森市の資料なんですけど、第何回といった表示が見当たらず申し訳ございません。

(赤坂委員)

情報交換とか、どういうレベルの話なのかと思ひまして。お互いの研究発表とか、イベント中心とか、どういう感じなのかなど。

(佐久間課長)

“縄文シティサミット”ということがございますので、大きな点は担当者とかではなくて首長さんが集まる会議というのが最大の特徴です。当然、首長会議のほかに記念講演等も行われます。サミットというのが通常の会議とは異なるところでございます。

(赤坂委員)

だいたいイメージできました。

(青木委員長)

赤坂委員、今、ご質問の縄文シティサミットは、おそらく世界遺産に関連して組織化されてきたものだと思います。そういう組織が結構ありまして、世界遺産に登録されていたり、それを目指している市町村が集まって問題点を議論したりとか、あるいは国に対してどういった要求をしようかというようなことを議論するとともに、首長さんが会っただけでは仕

方がありませんので、それに伴ってイベント的なことをする。そういう組織がいくつかあります。だから今流行りのコンソーシアム的な感覚で作ったのではないかと思います。

中村委員、貝層保護のための伐採も進んでいるようですが、これに関してはご意見ありませんでしょうか。

(中村委員)

昨年度に色々、現場を見せていただいています。その後現場を見ていないので今は何とも言えませんが、また現場を見せていただきながら、もしできることがあればというふうに思います。伐採計画に関しては、現場で事前打ち合わせはさせてもらいました。

(青木委員長)

はい。そうしましたら、今後ともよろしくお願いします。

(森本主査)

中村委員をはじめ、自然保護の活動団体の方と一緒に協議しながら進めて参ります。自然環境に配慮し、伐採しながら植樹も進めていくという形でやっていきます。

(青木委員長)

よろしくお願いいたします。何か、新博物館のことに関係はございますか。

谷口委員、どうぞ。

(谷口委員)

今、資料に見えている特別史跡の魅力向上の事業内訳ですが、その中に史跡整備というのがあって、今日、説明があったのが短期的な史跡整備のことだけです。長期的な史跡整備の課題というのも色々あると思います。

グランドデザインを検討していた頃の史跡保存整備委員会の時にも発言したことがありますが、長期的な史跡整備のなかで大事なものは、北貝塚の中央に建っている鉄塔、あの鉄塔を将来的には撤去していくというのが加曽利貝塚の景観をきちんとしたものにしていく上では不可欠な課題だと思います。

それから、もうひとつは植栽のことがあると思います。より縄文的な景観を、史跡全体として復元していくというのは単年度や短い時間のなかでは、もちろん出来ません。10年とか20年をかけて特別史跡の魅力を上昇していくために、景観をより良いものにしていくということを少しずつやっていかないといけないのではないのでしょうか。今日の説明を聞いていると、事業内訳というものがいくつかあって、そこにそれぞれの年度の予算が配分されて、それぞれで事業を進めていくという感じになっているかと思いますが、中長期的な展望というのが、そこが固定化されてしまうと無いように思うんです。

過去の史跡保存整備委員会の議事録も確認していただきたいんですが、市の職員の方も人事異動で変わったりして、過去の問題提起とか議論の経過とかが伝わってない気がします。困難な課題だとは思いますが、送電線の大まかなルートの変更だとかは難しいかもしれませんが、坂月川の対岸に建っている鉄塔の位置にも関係してくると思うんですが、鉄塔の位置の変更について、何も説明がないとせっかく意見をしても、より良い特別史跡につな

がらないといけないと思うんです。

(青木委員長)

事務局、いかがですか。

(佐久間課長)

以前から、新博物館の計画のなかでも鉄塔の撤去については、ご指摘を受けておりますので、十分に認識をしてはいるんですが、なかなかすぐにとはいきませんが、対策を考えていかなければならないと思っております。

ここには、短期的整備と書いておりますが、新博物館の基本計画の策定の遅れもありましたので、今年度あるいは来年度を目途に、短期的な整備について総括をいたしまして、その後の第2期目となる史跡整備の基本計画でどこまでやるのかということについては、来年度以降きちんと計画を、グランドデザインの見直しという形でやるのか、短期的整備を終えた後の第2期整備という位置づけでやるのかは、まだ議論していませんが、そういった形で次の計画を来年度以降きちんと立てていきたいと考えております。

(青木委員長)

第2期の短期的整備が終わった後に、考えていくということだと思いますから、現状としては、そういう推移で進んでいくのだと思います。

(谷口委員)

そうですね。私は、国の文化審議会の第三専門調査会の委員もしていますので、特別史跡は国の史跡のなかでも特別な史跡ということで、国宝に匹敵するような価値ある史跡という位置づけなんですよ。

特別史跡の重要な部分に鉄塔が立ったままだというのは、やはりおかしいと思うんです。

なんとしてもこれは撤去していかないといけない。それと併せて、植栽を上手く活用しながら、より縄文的な景観を復元していくということが長期的には重要な課題になると思うんです。

この委員会で進まないということであれば、国の審議会の方で発言して国の方にも考えてもらうということが、もし私の方でできるなら発言したいと思います。

(青木委員長)

わかりました。そこについては、市の方とよく話し合いをしてください。

(赤坂委員)

鉄塔の問題ですけれども、短期的な史跡整備で具体的な問題として、貝層保護のための樹木伐採だとか、具体的な目標を書いているわけですから、ここは鉄塔の問題もどこかで書いておく必要があるのではないのでしょうか。目標として、具体的にわかりやすい形で鉄塔の問題もどこかに明記しておく必要があると思います。

(青木委員長)

今、市の方から説明があったのは、今年度の事業計画についての説明ですので、おそらく長期的な問題については単年度の事業計画に載せられない項目だと思います。

鉄塔の撤去については、史跡保存整備委員会の総意ですのでグランドデザインなどに、この話も載ってると思うのですね。ですから、第2期の史跡整備で基本計画を見直しなどするとおっしゃってますので、その中で議論していただくという方向で、単年度に載せるのは無理だと思いますので、ご理解いただけないでしょうか。次の基本計画の検討過程のなかで将来的なことを提示していく方向で考えていくということではいかがでしょうか。

(赤坂委員)

資料3のグランドデザインに基づく史跡整備の部分に、鉄塔問題を連続する課題として記載できないのか。

(青木委員長)

市側の意見はどうですか。

(佐久間課長)

いつまでに、というのは難しい問題だと思いますが、そういう問題を抱えているというのは、少なくとも書いていかななくてはいけないと認識しております。

(青木委員長)

設楽委員、いかがですか。

(設楽副委員)

私も、赤坂委員と同じく資料3に加えることを市側としても検討して欲しいと思います。

(谷口委員)

千葉市と東京電力との間で、どういう交渉・相談が令和3年度には何回あったのかという報告はあってしかるべきではないでしょうか。やはり、いつまでに解決するという事ではないけれども、やはり長期的に取り組まないとならない課題だということは、皆さんも認めてくださっているのです。

令和3年度には、何度交渉があって、こういう結果だったというのは報告していただかないと、次の計画が立たないでしょうから。

(佐久間課長)

令和3年度は特段の進捗はありませんでしたが、来年度以降については、何かあった場合には必ず記載するようにいたします。

(青木委員長)

市の方も検討していくということですので、この件に関してはこれでご了解いただけますでしょうか。

(中村委員)

周辺の鉄塔の問題の他にご存じのとおり縄文の森構想というのもありますよね。それをどのように進めるか。今、ちょうど市は緑と水辺の基本計画の見直し、それから私が座長をつとめている生物多様性と水環境の保全計画のなかで、やはり加曽利貝塚は非常に注目されていますので、事務局側から市に対してもう少しわかりやすい資料なんかが提出してもらえると良いかなというふうに思います。

また、前年度の報告のなかに新博物館の基本計画が出来たという報告が無かったと思うんですね。それは、我々にとっては当たり前だということなんでしょうけども。

この基本計画の中に、我々が関わった検討プロセスがほとんど記載されていないんですね。策定に至るまでの経緯があまりにもあっさりしすぎている。こういった検討がしっかり行われたというプロセスが、普通は計画書本文の中か、あるいは資料編などに書かれていたりするんですけども。その辺は、事務局はどのように考えているのか。今、博物館に関していろいろなところでいろいろな動きがあります。やはり、これだけの大きな博物館をこれから目指すということは、しっかりと、どういった委員会でどういう意見があって課題も含めて、資料編みたいなものにまとめてあることがよくあるんですけども、その辺はまず、いかがでしょうか。

(佐久間課長)

昨年度は、2月に策定させていただいたというのは、当初のご報告でお話したつもりだったんですが、きちんとしたご報告が出来ずに申し訳ありませんでした。

それと、資料集のことについては、今後のこともありますので、昨年度は基本計画の策定で手一杯でしたので、今言ったようなものについても後世のために残すためにも、別冊かどうかは別なんですけど、策定経過はホームページなりにまとめるようにしたいと思います。

(中村委員)

ぜひ、よろしく願いいたします。

(青木委員長)

はい。事務局の方、今のでよろしく願いします。他には。

(設楽副委員)

基本計画について、資料2のNo.1ですが、新博物館の整備ですね。その中で、連絡歩道橋が載ってますけども委託期間が6月2日ということですから、すでに委託されているわけですよ。

(蚊谷室長)

はい。そうです。

(設楽副委員)

これ大変重要な問題だと思うんですよ。実例を挙げますね、松戸市立博物館。博物館の建物とそれから遺跡の上の橋ですね。博物館を出て、橋を渡るといきなり遺跡の復元家屋があって、橋によって現実の世界と区別するような。

今回の場合には長くなるわけですよ。当然のことながら、単なる橋ではなく遺跡と一体化した整備をしていかないといけないと思うんです。

ですから、オリエンタルコンサルタンツがどういう会社で、どういう実績があるのか。例えば、史跡整備なんかを手掛けたことがある会社なのかだとか。そういうところを、業者選定にあたっては慎重にやるべきなのではないかと思うんですけども。

まず、どういう経緯で選定されたのか、どういう業者なのか。

(蚊谷室長)

このオリエンタルコンサルタンツを選定したのは、公募型プロポーザル方式という企画提案方式によるものです。今回、募集の結果、オリエンタルコンサルタンツ1社のみ応募だったものですから、信任投票のような形で適切に事業が遂行できるかどうかという観点から評価しまして、合格点に達していたため選定しているというところです。このオリエンタルコンサルタンツというのは大きな橋を造る設計会社でして、橋の架橋などに豊富な経験を有しているんですけれども、例えば、高速道路や鉄道を通すような大型の橋梁ですとかを造ることに非常に長けた業者です。

ただ、今回の史跡に架かるような形で架橋するようなケースというのは、そもそも事例としてあまりありませんので、このオリエンタルコンサルタンツが先例を有しているかどうかというところは、把握できていないところがあります。

おそらく、今回のようなケースの知見はそれほど豊富ではないだろうということは想像できます。

(設楽副委員)

単なる渡り廊下的なものではなくて、史跡と一体化したようなものが必要なのではないかなど。こちら側で色々案を練って、提示していく。そういった条件・要望で設計・計画をしていくと。そういったこちら側のアクションが大事なんじゃないかなど。

それからやはり、新博物館整備室ですよ。何の役割をしているかと言ったら、そういうところにあるんじゃないかと思うんです。

それと、資料4-1ですね。整備運営事業者の募集・選定、これについて、12月です。非常に短い期間のなかで、先に先に早くやっついていかないとならないと思います。残りの3~4か月の間に新博物館整備室のほうでしっかりと協力して、我々史跡保存整備委員会の委員にも概要をお伝えいただいて、コミュニケーションをとりながら、きちんとした公募の条件を固めていく必要があると思います。

繰り返しになりますが、新博物館整備室の担う役割、それから目標、そういったものもしっかりと出していただきたいなというのが要望でございます。

(青木委員長)

その辺を、配慮いただいて計画を立てていただけるとありがたいと思います。

例えば、ここに書いてある要求水準書なんかについても色々問題があるかと思いたすので、随時史跡保存整備委員会の委員にご意見をお聞きしながらやっていけると良いかと思いたすますが、別の委員会を作る必要はないと私は思いたすますが、その辺はいかがですか。市の方は、その辺をまだお考えになっていないと思うのですが。

(蚊谷室長)

千葉市としては、要求水準書の内容について審議していただくのは、PFI事業の審査委員会がありますので、その審査委員会の中で要求水準書の適正については、ご判断いただくことになるんですけども、作り込みの過程において、市の職員とともに学術アドバイザーの

高橋先生に色々と月1～2回程度お会いしまして、先生に状況をご説明してアドバイスいただいているところで、学術的なところについては、フォローいただけているのではなからうかと考えております。

もう一点、連絡歩道橋について補足ですが、オリエンタルコンサルタンツという会社は、グランドデザイン策定の時から新博物館整備に関わっている事業者です。新博物館と史跡の間をどうやって繋ぐかということについてもある程度、課題・問題点を認識している事業者ですので、そういった現場のわかっている事業者と利用者の利便性、周辺環境との調和を図っていかなければならないという新博物館のミッションですね。お互いに連携する形で事業は進めておりますが、なかなか具体的にお示しできるものがまだまとめきれてないものですから、その辺、お示しすることがまだできていないため、委員の皆様からどうなっているのかよくわからないというご指摘、お叱りを受けたものだと思っております。

これから、下期になりますと成果品も順次上げていきますので、そういったものを適宜お示しいたしますので、そこでまた委員の皆様からご意見・ご指摘などいただければと思っております。以上です。

(青木委員長)

蚊谷室長、ありがとうございます。要求水準書がある程度できた段階で、史跡保存整備委員会を開いていただけるとありがたいと思っております。

(蚊谷室長)

はい。わかりました。その予定でスケジュールを組みたいと思います。

(青木委員長)

そこでまた色々、意見を伺えればと思いますので。

(中村委員)

やはり、史跡保存整備委員会と意思疎通をしっかりといただいたほうがいいと思えます。

実は、千葉市の委員会ですけども、いわゆる揉めて結果的には市長のところまで行って決着がついたみたいな揉め方で、1か月ほど作業が滞ってしまったというのがありましたのでぜひ、お願いします。

それから、東京大学総合研究博物館の方に加曽利貝塚の資料があるというのが書いてあって、初めて知ったんですけども。どういうものがどれくらいあって、どういう形で入っているのか。簡単で良いので教えていただければなど。

(西野所長)

具体的な数字まで、記憶していないのですが、かなりたくさん土器があります。土器以外にも貝とか骨といったものもあります。

すごく重要であるのは、加曽利E式土器とか加曽利B式土器というものの設定に関わるような大正時代の調査資料などがありまして、その記録類もほかのところにあたりしますので、とても重要な成果が得られるんじゃないかと思えます。

(中村委員)

量がわからないという、そういう状況で、それは要するに東大の方が持っているということですか。所属は、東京大学総合研究博物館側ということなんですか。

(西野所長)

現在はそうです。色んな経緯がありましたけれども、現在は東京大学の総合研究博物館に保管されているということです。

(中村委員)

わかりました。実態はしっかり把握して、活用とかね。しっかり考えていただきたいと思います。

(青木委員長)

はい。今村委員、何かありますか。

(今村委員)

まずは質問ですが、特別史跡魅力向上についてです。子ども向けの体験イベントなどを、夏休みや冬休みになさっているようで、実施したという実績はわかりましたが、満足度はどうだったのでしょうか。魅力向上を狙うなら、アンケートなどをとって、やった結果、どんな発見やニーズがあったのかなど、アンケートをとっているといいなと思うのですが。そのあたりはどうなっているのか教えてください。

(長原主査)

コロナ前にはアンケートをとっていた時期があるんですけども、コロナ禍になってから、アンケートの用紙だとかいろんなものを全部消毒したりだとか、そういうこともかなり多忙になってきたもので一時的に休止してしまっています。昨年度と今年度の夏場、アンケートは実施しておりません。

ただ、参加者に口頭での話はしていて、これからも続けてほしいですとか、こういう体験以外にもっと新しいものを開発してくださいだとか、そういうようなご意見は頂戴しております。そういうことも踏まえて次年度の事業に反映できたらということで検討しているところです。

(今村委員)

はい。分かりました。ありがとうございました。

コロナの状況もあってできないということであれば理解できます。実施できるタイミングには利用者の方の声やニーズを把握して、次のヒントとしていただきたいと思います。

もうひとつ、大人向けの体験がないようですが、そこについてのお考えを教えてくださいと思います。

(長原主査)

昨年度の土器づくり、それと今年度の土偶づくりに関しては、実は子ども向けというよりも、中学生以上向けの講座になっておりまして、どちらかというとな体験学習的な部分の難しさを伴うものは昔から博物館としては、やっています。

今後、既存の事業ではない部分でそういうことができるものが開発できたらなど。利用者にもご意見は賜ってますので、そのあたりを参考に、検討中というのが現実としてあります。

ただやはり、ひとつの新しい体験学習を作るときに実験とかも全部やってから実施することになっておりますので、なかなかすぐにはいかないという現状があります。次年度以降にひとつでも実現出来たらいいかなというふうに思っております。

(今村委員)

他の博物館では、色々と進んでいて大人のためのプレミアム体験などを実施しています。実際の土器などに触ることもできるみたい。他にも、大人向けの体験として縄で編んだペットボトルカバーを作るような体験などがあったり。新博物館の開館に向けての準備に時間がかかるのとことですが、そういった要素も加えて考えていただきたいと思います。

そういったことを整備運営事業者さんに求める要件に加えるのかどうか。そのあたりも検討されたら良いと思うのですが、それは整備運営事業者さんに求めることはできるのでしょうか。

(蚊谷室長)

いわゆる来館するお客様へのお楽しみのイベントということは子ども向け、大人向け含めまして、整備運営事業者にも検討いただきますし、我々市の職員としても、学術面から言っても、それが適正なものなのかどうなのかというところのチェック機能が必要ですので、整備運営事業者とともにイベントの内容については考えていくこととなります。

(今村委員)

ぜひ、要件に入れるべき項目かなと思いますので。

(青木委員長)

ありがとうございました。佐々木委員、いかがでしょうか。

(佐々木委員)

今のイベントに関して、他の博物館ではQRコードを読み込み自分のスマホからGoogleフォームなどでアンケートを書いて送信という方法もありますので、そういった形であれば非接触でも効率的にアンケートの回収ができるのかなと思いました。

また、加曽利貝塚で新しい新事実が色々見つかっておりますので、ここの史跡でしかできないプログラムというのを新しく開発していく必要があると思います。

(青木委員長)

イベント関係のことについてはその他の取り組みがこれからできると思いますし、例えば、アンケートをとった後ですね、結果についてこの委員会でご報告頂ければ、また我々のアイデアが出てくるかと思えます。大変かと思えますが、ご協力いただければありがたいと思います。

私からお願いなんですけども、貝塚博物館紀要を出してますよね。今年度も出す予定でおられると思いますけども、できれば、査読付きに変換するようなことは対応として可能でしょうか。いわゆる博物館のなかで研究型博物館的なことも考えていきたいと思います。

なことでありますので、そういうようなことについては対応可能なかどうか。

(神野館長)

現在は査読という形はとっていませんが、今後、掲載希望というものが館内外からも多く寄せられているという現状を考えまして、ある一つの基準を作って、掲載というものの基準を明確にしていく必要があるというふうには考えております。それを査読の形にするのも一つの選択肢だと思います。今後、新博物館に紀要が移行していくことは確実なので、基準につきましては今後検討していきたいというふうに考えております。

(青木委員長)

ぜひご検討いただければありがたいと思います。よろしく申し上げます。

他に何かございますでしょうか。

(委員一同)

意見なし

(青木委員長)

それでは、事務局へお返しします。

(佐久間課長)

青木委員長ありがとうございます。先ほどの赤坂委員の縄文シティサミットのご質問の件、インターネットでお調べした限りですが、第1回が1998年に行われているようでして比較的古い歴史を持つようでした。

昨年度、青森市で行われたのが24回目ということでございましたので世界遺産に向けてかなり前から動かれているという形のようにございました。

すみません、すぐにわからずに。追加でご報告させていただきます。

(事務局)

どうもありがとうございました。委員の皆様、長時間にわたり熱心なご協議をいただきありがとうございました。

それでは、以上を持ちまして、令和4年度第1回千葉市史跡保存整備委員会を閉会いたします。本日は、お忙しい中、どうもありがとうございました。

——了——